

研 究 分 野	増養殖技術	部 名	磯根資源部
研 究 課 題 名	ガゴメを育む清らかな里海づくり事業		
予 算 区 分	水産基盤整備事業費		
試験研究実施年度・研究期間	H20～H21		
担 当	山田 嘉暢		
協 力 ・ 分 担 関 係	むつ水産事務所、東通村、風間浦村		

〈目的〉

下北地域県民局が実施主体となつて行うガゴメの事業に種苗を供給するとともに、下北地域の自治体職員にガゴメ採苗の技術指導を行う。

〈試験研究方法〉

ガゴメの種苗生産

母藻には佐井村地先から2年ガゴメ成熟藻体を平成20年11月5日に採取して用いた。採取した母藻を増養殖研究所に運搬し、滅菌海水で洗浄し、藻体から供雑物を取り除いて、藻体をよく拭き、新聞紙に包んで冷暗室で暗蒸した。11月6日に遊走子の放出が確認できたので、水温7℃の滅菌海水中で遊走子を放出させた。1時間後、遊走子数を万能投影機で計数したところ、100倍視野で50～60個体が観察されたため、母藻を取り揚げ、さらに夾雑物を取り除いた液を孢子液として、40ℓのプラスチック水槽3個に注ぎ、静かに攪拌してから、1枠50mのクレモナ糸を2枠1組で巻いた採苗器3枠（計300m）に静置し、温度7℃の暗室に一晩、静置した。翌日から光量40～60 μ mol/m²/s、短日（9時間明期：15時間暗期）条件下で通気培養した。培養にはPESI培地を用いて、概ね7日を目安に交換した。培養は沖出しまでの平成21年2月上旬にかけて行った。

人工採苗技術指導

平成20年12月10日に東通村アワビ種苗施設において、佐井村地先で12月8日に採取した2年ガゴメ母藻をろ過海水で洗浄し、新聞紙に包んで冷暗室で暗蒸した。12月9日に遊走子の放出を確認したので、水温11℃のろ過海水中で遊走子を放出させた。30分後に遊走子数を計数したところ、100倍視野で60～100個体が観察されたため、母藻を取り揚げ、夾雑物を取り除いた液を孢子液として、約200ℓのFRP水槽に注ぎ、攪拌してから、採苗器（計約300m）を静置し、黒いシートで遮光した。12月11日からエアレーションと栄養塩の添加を指示した。

〈結果の概要・要約〉

ガゴメの種苗生産

平成 21 年 2 月 9 日に、葉長約 5mm に生長したガゴメ種糸 300m をむつ水産事務所職員が増養殖研究所から尻屋漁協へ運搬し配布した。

〈今後の問題点〉

沖出し時期を早めるために、11 月上旬までに成熟した 2 年ガゴメ天然藻体を確保する必要がある。

〈次年度の具体的計画〉

種苗生産：平成 21 年 10 月下旬～平成 22 年 2 月

人工採苗技術指導：平成 21 年 11 月～12 月

〈結果の発表・活用状況等〉

なし